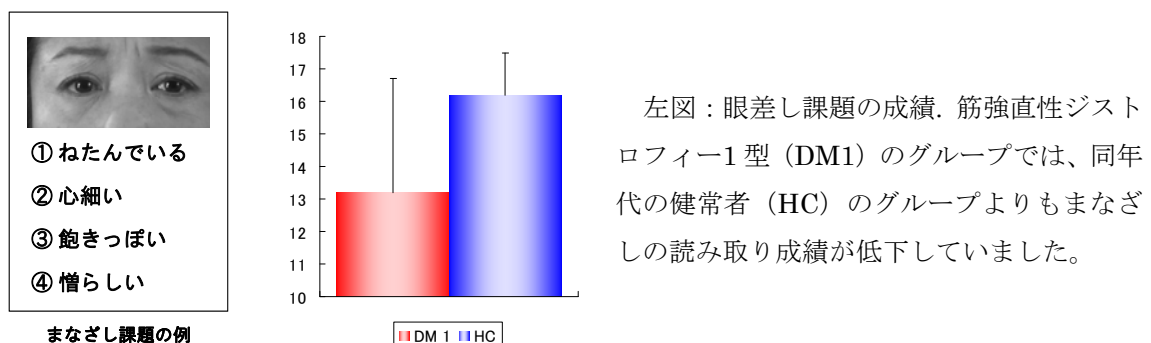


自閉症スペクトラム障害がみられることがある筋強直性ジストロフィー1型の患者さんでは、顔から他人の心理を読み取ることが難しいことが分かりました

筋強直性ジストロフィー1型では、自閉症スペクトラム障害のような社会行動の変化がみられることが、昔から知られていました。しかし、そのメカニズムはほとんど調べられていませんでした。そこで、公募班員の河村満と研究協力者の小早川睦貴は、筋強直性ジストロフィー1型の患者さんのコミュニケーション機能を調べました。

その結果、筋強直性ジストロフィーの患者さんは「まなざし課題」(下左図)という課題での成績が低下していました。まなざし課題は、顔の中で目の周囲の領域だけが提示され、写っている人物の気持ちや心理状態を推測する課題です。この他にも、文章中の登場人物の心理状態を読み取る課題で成績が低下していました。これらの課題は、自閉症スペクトラム障害でも成績が低下することが知られています。

この疾患では筋肉だけでなく、脳を含めた中枢神経系の病変も生じます。今回の研究結果からは、筋強直性ジストロフィーの脳病変がコミュニケーション機能にも影響している可能性が考えられます。



この研究の内容は、下記の論文に掲載されました。

Neuroscience Research. 2012;72(4):341-6.

Theory of mind impairment in adult-onset myotonic dystrophy type 1.

Kobayakawa M, Tsuruya N, Kawamura M.

2012年5月9日 河村満